

達成度
 A: ほぼ達成できた
 B: 概ね達成できた
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

1 学校教育目標 歴史に培われた伝統に学びながら、21世紀を担う平和で民主的な社会の形成者として、人間愛に満ちた心身共に健全で逞しい工業技術者を育成する。 校訓 「至誠剛健」(誠実で心身ともに逞しく)	2 本年度の重点目標 ものづくりから「人づくり」そして「未来づくり」 ア 規律ある高校生活…基本的な生活習慣の確立、規範意識の醸成、挨拶の励行 イ ものづくり教育の推進…資格取得の推進、安全教育の推進 ウ 開かれた学校づくり…定時制情報発信、ホームページの充実
---	---

3 目標・評価

①学力の向上							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方法	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	・普通教科における基礎的な学力の育成	・生徒の学力を常に把握し、基礎的な内容の定着を図る。	・学びの基礎診断等で生徒の学力を把握するとともに、個々の学力に応じた基礎的な内容や一般常識の学習を授業に取り入れる。	A	学びの基礎診断にて学力の把握を行い、各教科担当者に示して指導中。	基礎的な学びの時間を、別途設けるようにしたい。
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	・ICT利活用による授業の工夫・改善	・電子黒板や学習用PCの利活用により、授業での理解力向上を目指す。		B	ICT機器については、授業等でも使われている。	ICT機器の資料等をまとめ、いつでも見ることができる環境整備に努めたい。

②ものづくりと資格取得の推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方法	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○ものづくりと資格取得の推進	・資格取得推進と各種大会参加	・難関資格へのチャレンジと受験者全員の合格を目指す。	・資格取得に対する意識を高める指導を行う。 ・難関資格チャレンジに対して補習などを行い、多くの資格取得を目指す。 ・工業技術大会等への積極的な参加を促す。	B	電気工事士、2級ボイラー-技士等様々な資格取得ができたが全員合格はできなかった。工業技術大会への参加は今年度はできなかった。	資格等取得するためには、基礎学力も必要になってくる。授業等を通じて基礎学力の定着をはかっていきたい。
教育活動	○地域との連携	・地域でのボランティア活動	・地域の清掃活動や地域のイベントへの積極的な参加	・学校周辺のゴミ拾い活動、佐賀インターナショナルハルーンフェスティバルでの大会補助活動等	C	5月に歴史探訪を兼ねて清掃ボランティアを計画していたが雨台風で中止になった。	できるだけ天候を見て計画を立てたいと思う。

③進路指導の充実							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方法	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○進路指導	・進路希望の実現	・満足度の高い生徒の進路実現ができるよう、進路先の開拓や情報の収集・整備と適切な指導助言に努める。 ・進路意識の高揚と職業観・勤労観の育成と定着に努める。	・自己の健康管理について指導し、欠席をなくす。 ・進学や就職に必要な基礎学力の向上と定着に取り組む。 ・進路希望調査をもとに面談を実施し、個々の生徒に必要な支援を行う。 ・進路と担任の連携を密にして、生徒の能力・適性と希望にあった進路先の情報提供及び適切な指導助言に努める。 ・在学中の就業率を向上させるとともに、職業講話などを通じて職業観・勤労観の育成と定着を図る。 ・定時制生徒の受け入れ可能な企業の開拓を図る。	A	担任と共に生徒との面談や進路先の指導助言に努め4年生全員の進路希望が実現できたが、出席率や就業率は十割には向上できなかった。	生徒それぞれ様々な事情に応じた支援と職業講話や進路希望調査を繰り返し実施し、できる限り早期に専攻の目標を設定させることにより、出席率や就業率の向上につなげたい。
教育活動	●志を高める教育	自己の人生について考え人生計画や目標とする人物像を具現化することができる教育活動の推進	・「佐賀に愛着を持っている」と回答する生徒80% ・授業改善に向け、全職員が授業公開を年間3回以上行う。 ・キャリア教育を推進するため、佐賀の企業について学ぶ教育を推進する。	・各地域の郷土学習や(県教育委員会作成の郷土学習資料)「佐賀語り」「佐賀巡り」等を活用した授業に取り組む。 ・授業改善に向けた授業公開を年間3回以上行い、生徒が自己肯定感を高める授業づくりを推進する。 ・ハローワーク等の講師による佐賀の企業紹介等を行い、郷土への愛着心を育成する。	B	ハローワークから講師を招聘し、佐賀の企業紹介や働くことの意義など、キャリア教育及び佐賀の魅力学ぶ教育を推進することができた。	教材研究、授業等の評価方法については、職員全体のスキル向上のため研修会等を行い、改善を図っていくべきであり、ベテラン教師の指導方法を参考に若手教師の育成を図ってほしい。

④生徒指導の徹底							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方法	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○生徒指導	・基本的な生活習慣の確立及び素直な態度の育成	・気持ちよい挨拶ができ、遅刻・欠席をしない等社会人として必要な素養を身に付ける。	・登下校時の挨拶指導に取り組む。(毎日の登校指導) ・清潔な身なり、実習室や教室での5S(整理・整頓・清潔・清掃・経)運動を指導する。 ・卒業生や、特異な髪型等の指導および、入室や言葉遣いなどのマナー指導を全職員で徹底する。 ・自動車・原付バイク・自転車の安全運転指導、定期的な交通用具の点検指導を行う。	A	生徒達は挨拶は良くなってきている。また、交通用具点検でも指導に従っている。ただ、一部の生徒がピアスや指輪、バイクの校内乗り入れ等徹底できていない部分があるので、指導が必要である。	今後も指導を継続してきたい。年度途中で決めたこともあったので、来年度からは、徹底して指導していかねばならないと思う。生徒の気持ちも理解しながら助める必要がある。
教育活動	●心の教育	・豊かな人間性の育成	・道徳教育を推進し、命を大切に育てる心を育成する。 ・相手の気持ちを思いやる心を育てる。	・道徳の年間計画を作成し、健康・安全・心の教育・消費者教育等の講演会、講話を実施する。 ・校内生活を通じて相手の気持ちを思いやる心を育てる。	B	・各種講話やDVD視聴による情操教育を実施した。	・今後も継続して各種講話を実施し、豊かな人間性を育成する教育を推進していき
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめのない健やかで穏やかな学校生活を営むことのできる環境と体制づくり	・「未然防止」「早期発見」「早期対応」に向けた体制の推進。 ・いじめを「しない」「させない」「ゆるさない」心を育成する。	・学期毎のアンケート調査ならびに担任による面談を実施する。 ・生徒会と連携した啓発活動に取り組む。 ・生徒が相談しやすい環境づくりを行う。 ・全職員による認知と認知に関わる情報の共有化を図る。 ・問題発生時には関係機関との連携強化を図る。	A	いじめアンケートで生徒の状況が把握できる。生徒会とも連携できていると思う。職員間で認知の共有化を今後も図って行きたい。	いじめアンケートの継続化。職員会議でのクラス状況報告に際して、認知と認知に少しでも関わる事案に対して共有化を促す。事案に対する内容は、直ぐ教頭へ相談する様に伝える。

⑤健康・体づくりの推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方法	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくりの推進	・給食指導の推進 ・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ・スポーツ大会の実施	・生徒の給食喫食率80%以上を目指す。 ・給食指導を通して望ましい食習慣の定着を目指す。 ・食中毒を防ぐための日常的な衛生管理を徹底する。 ・生徒会主催のスポーツ行事を充実する。	・給食前に給食室への移動を促し、喫食できるような環境を構築する。 ・集会等で食育及び食中毒や手洗いの指導などに関する教育を行う。 ・給食アンケートや教育講話を実施する。 ・年二回のクラスマッチの他に生徒会主催のスポーツ行事を実施し、生徒間の交流を図るとともに学校への帰属意識の	B	・季節行事やリクエストメニューなどを工夫し、委託業者とも連絡を密にし、美味しい給食を実施したが、生徒の喫食率は70%を下回った。	・問題行動の始まりは給食を食べないことなので、今後とも喫食率の向上を目指す。 ・食育講話を実施し、きちんとした食生活の習慣を身に付けさせる。

⑥人権・同和教育の推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方法	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○人権・同和教育の推進・支援	・生活全般にわたる人権教育の立場からの職員研修の充実 ・校内からあらゆる差別や人権侵害をなくす取り組みの実施	・生活の各方面にわたる人権教育の立場から、人権・同和教育についてのHRを全学年クラスで実施する。 ・ホームルーム等で差別や人権侵害をなくすための指導を行う。 ・職員の人権・同和教育の意識を更に向上する。	・公的機関の提供する啓発動画などの具体的事例をもとに全生徒対象の研修会及びHRの充実を図る。 ・人間関係をスムーズにするための言葉遣いを指導する。 ・年度に1回以上職員研修会を実施するとともに、年度に1回以上、各種研修会へ参加する。	B	年間計画どおり全生徒・職員に対し人権啓発活動ができたと思う。	年々ネットによる人権侵害が巧妙になってきているのでその時々あった教材を準備したいと思う。

⑦教育相談の充実							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方法	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○教育相談の推進・支援	・組織的な教育相談体制の整備 ・スクールカウンセラーの活用と連携	・全職員で情報を共有し、SCとも連携し、組織的・機動的な体制をつくる。	・担任・副担任と教育相談担当やスクールカウンセラーとの連絡を密にし、職員が共通理解を図りながら指導・相談にあたる。 ・月1回の職員会において職員が情報提供し、組織的教育相談の体制を確立する	A	・年度初めに旧担任より、毎月の職員会議では担任より気になる生徒の情報を提供してもらい、全職員で情報の共有を図った。	・気になる生徒の情報共有は、来年度もこのまま実施したい。 ・中学校からの情報収集など特別支援の必要な生徒の支援計画や対応に取組む必要がある。

⑧ 学校運営の改善							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方法	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校経営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・業務効率化の推進	・事務室と連携し、単純な前例踏襲ではない効率的な業務遂行を工夫	・始りや業務上のコミュニケーションを大事にし、それぞれの業務の進捗等の情報共有をし、職員間のフォロー体制を強化する	A	職員間の情報の共有化を推進し円滑な業務が遂行できた。	次年度は定通部の事務局当番となる。これまで以上に業務の円滑化を推進する必要がある。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目